

令和5年2月27日

養父市議会議長 西 田 雄 一 様

総務文教常任委員会
委員長 谷 垣 満

総務文教常任委員会調査報告書

閉会中において、本委員会の所管事務調査につき調査したことを次のとおり報告する。

記

- 1 調査年月日 令和5年1月30日（月）、2月9日（木）
- 2 調査事項 メタバースの活用について
- 3 調査内容

上記について、経営企画部経営政策・国家戦略特区課から説明を受け、調査を行った。メタバースとは、インターネットの中に現実世界と同様の建物や風景が再現された仮想空間である。パソコンやスマートフォンを通じて入り、その中で観光や買物、音楽ライブなどと共に、会話や交流等のコミュニケーションを現実に近い形で体験できるしくみである。その市場は今後急拡大することが予測されており、地方創生への活用や新しい経済圏の創出などが期待されている。

市は令和4年度の新規事業としてメタバース構築事業を実施している。吉本興業株式会社と連携協定を結び、メタバースの構築・運営・保守管理とイベントのプロモーションを委託しており、インターネット上に市役所、明延鉦山、天滝、妙見三重塔等を再現した「バーチャルやぶ」を令和4年6月27日にオープンした。本年1月27日までの来訪者数は8,182人、デジタル市民証の発行者数は5,727人である。オープン以降、メタバース内に市観光協会と連携した観光案内所や、ライブ会場、スキー場、新年おみくじ処を新たに設けるなどその拡充を進めてきた。オープニングイベントや体験会、メタバース内のミニゲームに吉本興業所属のタレントが登場したり、若手タレントを中心とする「よしもとバーチャルタレント研究生」が定期的にガイドツアーを実施しており、発信力のある企業との取組は、テレビや新聞、SNSなど多くのメディアで取り上げられ、市の広告・宣伝効果が拡がりつつある。

市は、まちづくり計画に掲げるつながり人口の創出と観光誘致を第一段階の目的としているが、今後は遠隔医療や遠隔授業、市外利用者との討論会など、その特性を生かした活用を探ると共に、市民が気軽に体験できる常設施設の整備や、より身近なスマートフォン版の構築を目指す意向である。

(まとめ)

自治体におけるメタバースの活用は発展途上であり、その成果は未知数である。市の予算で行う事業として、広告・宣伝効果に留まらず市民福祉の充実と向上につなげることが求められる。

メタバースの特徴は、対面と同じような会話によるコミュニケーションを通信環境の中で行えることである。遠隔地からリアルタイムにつながることで、広域で複雑な地形を抱える養父市においては、過疎や高齢化の課題への活用が期待される。交通手段の課題や医療機会の確保、コミュニケーションを通じた見守りや孤立の予防など、高齢者がその恩恵を実感することが必要である。認知機能・身体機能の低下予防などにも活用し、高齢世代への周知と体験の機会につなげられたい。メタバース上での市民ガイドなど、市外利用者との遠隔または現実での交流や、インターネット上の新しい市民の交流施設として、多様な市民・世代の新たな居場所としての活用にも期待が持てる。今後の通信環境の充実やデジタル推進に必要な人材の確保については、国・県支援の活用を図られたい。

都市部との距離や時間を埋める新たな技術であり、地方部の子育てや暮らし、学びや遊びなど、あらゆる世代や境遇にある市民の課題に落とし込むことで、その活用と成果が見込まれる。市とメタバースのつながりが全国的に認知されつつある中で、市が目指す教育や福祉分野における活用には、具体的な各課の連携や体制の確立が望まれる。多様な地域課題の解消にむけた全庁的な取組として検討されたい。あわせて市民が体験する機会を通じて、市がメタバース活用に取り組む意義や目的を共有し、市民理解を得ながら全市的な取組へとつなげられたい。